

「楽しい」という思いが
今も祭りをつないでいます。

湯湾釜集落区長

はじめ つくお
元 継男 さん(65)

私が幼い頃は、子どもは踊りに参加できず、もらうカシャ餅だけが楽しみでした。本来、防災への気を引き締めるための祭りですが、人口が減って子どもも踊りに加わり、次第に花や菓子振る舞われて盛大になって行きました。今では五穀豊穡の意味も持つようになっています。現在人口は横ばいですが、祭りが集落を結束させ、祭りの楽しい思い出が人口の流失防止に一役買っているように思います。



ムチモレ踊り

大島郡大和村 / 湯湾釜集落

夜更けまで踊り明かす 集落総出の防災祭り

「ムチもらたー、ムチもらたー」、「よいやー、よいやー」、「花もらたー、花もらたー」、「よいやー、よいやー」。旧暦の10月16日の夜、にぎやかな囃子の音に、奄美大島の大和村湯湾釜集落はにわかに活気づきます。

声の主たちは着物に身を包み、風呂敷やスカーフで顔を覆った青年や子どもたち。家の庭先で三味線やチヂン（太鼓）に合わせて思い通りに踊り、47世帯の集落を一軒一軒回って無病息災を祈ります。「ムチモレ」とは、餅をもらうという意味で、行く先々でお礼のカシャ餅や花（寄付金）を頂くのが習わし。酒や菓子なども振る舞われ、酔いとともに祭りは盛り上がります。「ムチモレ踊りは、消防設備の整っていない時代に集落が大火に見舞われ、消火用の水が足りず、田んぼの泥で鎮火したことがきっかけで始まったと言われています。防火意識を高める祭りでもあり、カシャ餅は、クマタケランの葉で包んだ奄美伝統のいも餅で、火難除けの意味があります」。説明してくださったのは、20年前までは踊り

鹿兒島には、古くから受け継がれてきた個性豊かな伝統行事・祭りが残っています。今回はそんな伝統行事の中から大和村湯湾釜集落に伝わる「ムチモレ踊り」をご紹介します。

手として参加していたという湯湾釜集落区長の元継男さん。現在は花を頂く役を務めているため、昔のように踊りに没頭できないのですが、この時期になると、胸が高まるといいます。「風呂敷をかぶるのは、火除けのためなど諸説ありますが、踊りが下手でも気兼ねなく踊れるようにとの配慮もあるようです」

今年の「ムチモレ踊り」は、11月27日（金）。午後7時、集落の守り神を祭る家「トネヤ」からスタートします。祭りには集落総出で参加し、夜が更けるまで飲んで、食べて、踊り明かします。



大和村

大和村は明治41年に発足した総人口1,598人（平成27年8月31日現在）の村です。奄美大島にある村の一つで、年間を通じた温暖な気候と貴重な動植物が生息する自然が特徴です。写真は奄美市から車で約30分の「国直海岸」。サンゴ砂利の美しい砂浜が印象的な海岸です。夏は海水浴やキャンプを楽しむ多くの家族連れでにぎわいます。

大和村